

研修報告書№.9

所属：横浜市立大学附属市民総合医療センター 研修医
研修先：本山町立国保嶺北中央病院
いの町立国保長沢診療所
大川村国保小松診療所

私は、2016年11月1日～25日の期間で嶺北中央病院で地域医療研修に従事させていただきましたので、これを報告します。

嶺北中央病院は高知市の北に位置し大豊町、本山町、土佐町、大川村の4町村で構成される嶺北と呼ばれる地域の中の本山町にあります。本山町は北部に石鎚山地、南部に剣山地に囲まれ、その中間部を吉野川が流れ、林業従事者が多いところで、近年は高齢化が進み人口が減少していている町です（人口3,479人 平成27年）。嶺北中央病院は、嶺北地域では唯一の一般病床をもつ公立病院で（一般病床59床、医療型療養病床52床、計111床）、その診療圏は、本山町、大豊町、土佐町、大川村の嶺北4町村におよび診療圏人口は約13,000人、高齢化率45%と高い特徴があります。

私は、今回の地域医療研修で嶺北中央病院では病棟管理と救急外来対応を、大川村診療所、汗見川診療所、長沢診療所では外来診察を経験させていただき、その他にも往診同行、デイケア見学など多くの研修機会に恵まれました。

1ヶ月の地域医療研修を終えて、私が感じた高知の医療と普段自分が医療を行っている神奈川県との違いは、まず患者に高齢者が多いこと、次に医療連携が進んでいることでした。

今回、研修させていただいた嶺北中央病院が山間部に近い所に位置するからかもしれませんが、担当させてもらった患者は60歳以上で、最高齢は94歳でした。また、高齢者のほとんどが、ADLはフルで自立していたことも驚きでした。元気である半面、家族が高知市内に住んでいる等の理由で独居になっている人も多くいました。そのため、脳梗塞などで障害が残った場合も、退院後に独りで生活していかなければならない人もいて、入院中に退院後の家での生活が独りで行えられるように考えられた理学療法を行い、退院後も往診リハビリを受けていく人がおり、より患者に寄り添った医療が行われていました。

また、医療連携の面では、嶺北中央病院では対応できない患者が来た場合でも、速やかに高知市内の病院へ救急車やドクターヘリを駆使し搬送していました。高知の医療は神奈川県と比較し、マンパワーや医療設備ではかなわないかもしれないが、互いに助け合う形で

の医療連携に長けており劣っている点をカバーしていると感じました。

今回、1か月という短い期間での研修ではありましたが、嶺北地区での医療の現場を肌で感じることができるようなプログラムを組んで頂いたおかげで、充実したよい研修が行えたと思います。横浜では経験することができないであろう、山間部の診療所を回ることや診療所に来ることのできない人のための往診に同行することができました。

今回の研修を通して高齢化の進んだ山間部地域での医療の難しさを学ぶことができたと思います。また、このような医療は、維持していくことが難しいですが、山間部地域の人々の健やかな生活を守るために欠かすことのできない大切なものだとも感じました。新ためて、最先端を追うことだけが医療ではなく、地域住民に密接し、手の行き届いた医療も、今後の高齢化社会を向かえていく日本には必要不可欠だと感じました。

最後に、このような貴重な経験を私にさせて頂いた嶺北中央病院の皆様方、また高知県の皆様方に感謝の言葉を述べたいと思います、ありがとうございました。